平成30年度　佐賀市立北川副小学校　学校評価結果

【R5→504→H30→（新）H30学校評価計画】

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
えがお かがやく 子どもを育てる 「チーム北川副」 ～子どもも大人も「北川副プライド」で夢や目標を実現させよう～ きたえよう 心と体　かわそう あいさつ　そえよう えがお	知・徳・体がバランスよく育ち、笑顔輝く子どもの育成 **(き)れいな学校にしよう** **(た)くさん本を読もう** **(か)んしゃの気持ちをもとう** **(わ)かるまで勉強をがんばろう** **(そ)とで元気に遊ぼう** **(え)がおであいさつをしよう**

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

3　目標・評価

◎本校の特色に関わる評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	下半期の方策（改善策、維持するための策）	達成度	成果と課題（左記の理由）	来年度に向けて
学校運営	○コミュニティ・スクール 【五者会議】	・学校運営協議会の充実	・学校運営協議会の創意を生かした教育活動を積極的に行う。 ・教育・学習の縦軸と横軸のつなぎを強化し、城南豊夢学園の活動への参画を促進する。 ・佐賀県内の先進地（中学校区型CS）としての役割を自覚し、コミュニティ・スクールのよさを広める。	・これまでに積み上げてきた地域と連携した各種の活動を継続していく中で、方法について見直しも随時加えていくことで、より意味のある活動、あるいは持続可能な無理の無い活動としていく。 ・今年度は学校運営協議会の組織を拡大したので、そのネットワークを生かした危機管理体制を作り上げる。	A	・学校評価の結果からもCSの取組については、保護者・児童両方が、その活動のよさを大いに実感していることが窺える。今年度は学校運営協議会に地域団体代表も加わり、子ども民生委員活動を始めとする意義深い活動を広げることができた。CSの活動が児童の学校内外での生活を豊かにすることは大歓迎するものの、そのことにより職員の負担感が増大することがないよう留意していく必要がある。	・来年度は学校運営協議会に公民館長を加え、地域学校協働プラットホーム事業に着手し、学校が担っていた地域人材への連絡調整等を行うポジションを設定する。また、PTAとCSがより連携し、既存の行事・活動等の協働なども検討していきたい。 ・城南豊夢学園の取組に関しては、マンネリ化しないよう活動内容の見直しや3校での各ポジション同士の連携も密に行っていく。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進 【五者会議】	・働きやすい職場環境づくり ・児童と向き合う時間の確保	・定時退勤日を設定し、75%以上の達成を目指す。 ・前年度と比較し、時間外勤務の割合を20%以上削減する。 ・児童と向き合う時間が増えたと感じる担任の割合を75%以上にする。 ・担任が子どもとかかわる時間が増えたと感じる保護者の割合を75%以上にする。	・下半期は1ヶ月の時間外勤務の平均時間を、上半期より10時間以上削減する。 ・定時退勤日の時間外勤務は1時間以内になるよう声をかけていく。 ・部会、学年会などの会議も終了時間を設定し、時短を意識して行うようにする。	B	・学校評価で「担任は子どもとしっかり関わっている」については、保護者・児童両方から96%という高評価を得ることができた。 ・定時退勤日は随分定着し、85%以上の職員が時間外勤務1時間以内に退勤するようになった。 ・下半期は1ヶ月の時間外勤務の平均時間を、上半期より10時間以上削減することができた。 ・学年主任会、5部長会、職員会議等の回数の削減や内容のスリム化を大幅に行ったことで、勤務時間内の職員の仕事時間を昨年度よりも確保することができた。	・今年度はいろいろな角度からの業務改善を試み、それが職員の働きやすさの向上に繋がった。来年度も全職員で知恵を出し合いながら、慣例にとらわれない発想で、引き続き業務改善を進めていく。ただし、業務改善を行うことで、組織力や指導力、教育の質が低下することにならないよう留意していく必要もある。
教育活動	○教育のユニバーサルデザイン化 【学び・暮らし部】	・学習しやすい授業づくり ・学習しやすい環境づくり ・・・**「きれいな学校にしよう」**	・学級が「とても発表しやすい」「発表しやすい」と答える児童を75%以上にする。 ・先生の授業が発表したくなる授業かどうかで、「とても思う」「思う」と答える児童を75%以上にする。 ・学習環境が整理・整頓されて使いやすくなったと感じる児童や教職員の割合を75%以上にする。	・発表を苦手とする児童にも参加しやすい授業を提供するために、教育のユニバーサルデザイン化の視点から、つまずきを想定したり、発表の型を示したりする。 ・教室では整理・整頓する時間を設定したり、職員室でも整理する時間を設けることで、生活しやすい環境を整える。	B	・校内研の実践を中心として、各学年・学級において授業や場の構造化が進められたと考えられる。 ・教室や職員室の整頓については、職員任せになっていたところがある。学期末などになると棚や机上に資料等がかさばる場面があった。	・来年度、新しく異動してくる職員にも、分かりやすいような教育のUD化についての資料等を配布したり、連絡会等において啓発をしたりして学校全体で教育のUD化に取り組む風土づくりを行っていく。その中に、学習環境のUD化、学校生活のUD化と共に授業のUD化についての情報を提示していきたい。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	下半期の方策（改善策、維持するための策）	達成度	成果と課題（左記の理由）	来年度に向けて
教育活動	●学力向上 【学び・育ち部】	・主体的な学習習慣の育成 ・・・**「わかるまで勉強をがんばろう」**	・友達や先生に自分の考えを話したり、きいたりして問題を解決しようとしている児童を75%以上にする。 ・授業中「よく進んで活動している」「進んで活動している」と答える児童を75%以上にする。	・授業内容について、学年で情報交換をしながら、更なる「話したくなる授業」展開を工夫していく。 ・学習状況踏査をもとに、全職員で授業改善の方策を共通理解し実践していく。 ・家庭学習「豊夢ワーク」週間だけにとどまらず、日々、家庭での学習習慣の継続を呼びかけていく。	B	・学校や家庭で進んで学習している児童が84%から90%と6ポイント上昇していることから、校内研究授業などを通して児童自らが進んで話す活動に取り組もうとする姿が出てきていると考える。 ・学力向上研修会を年間4回開き、学習状況調査をもとに授業改善の方策を学年で話したり、全職員で共通理解したりして実施することができた。 ・年2回の「豊夢ワーク」週間で、学習習慣の定着た9割を超えた。児童の意識も90%を達成した。ゲーム・テレビの時間を短くさせることが課題である。	・校内研究のテーマに沿って、今年度までに獲得した成果や反省をもとに、来年度の校内研究のテーマを設定していきたい。 ・学期に1回は、授業改善の方策を見直す機会を設けたい。 ・「豊夢ワーク」週間を中心に据えて、課題学習や宿題のあり方を工夫させる必要がある。お便り等を出して、啓発を図る。
教育活動	○図書館教育 【育ち・学び部】	・読書活動の推進 ・・・**「たくさん本を読もう」**	・1年間の読書量について1人当たり100冊以上を目指す。 ・各学年の推薦図書40選を全児童が読破できるようにする。 ・家庭と連携し、家庭での読書推進を図る。	・児童の読書量に差があるので、目標冊数目指して読書できるように、呼びかけをしていく。 ・推薦図書を読み終えた、、目標冊数達成できた児童を放送で称賛し、読書量増を目指していく。 ・図書だよりで、お薦め図書や新着図書の紹介を継続していく。	B	・推薦図書を読み終えたり、目標冊数達成したりした児童を放送して称賛することによって、読書意欲が高まった。下学年の読書量は増えてきた。上学年では図書館で総合等の学習で活用が高まった。 ・図書だよりで、お薦め図書や新着図書を紹介することで、図書室へ来室が多くなってきた。	・下学年の読書量は増えているが、上学年の読書量があまり伸びていないので、上学年が読書に親しむための手立てを考える。 ・図書館だよりでお薦めの図書や新着図書を紹介し、興味を持って本を借りることができるように声かけをしていく。

②「やさしい子」「ただしい子」の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	下半期の方策（改善策、維持するための策）	達成度	成果と課題（左記の理由）	来年度に向けて
教育活動	●心の教育 【心豊か・育ち】	・道徳教育の充実 ・思いやりのある言葉遣い ・・・**「感謝の気持ちをもとう」**	・友達ににこにこ言葉を「よくつかっている」「つかっている」と答える児童を90%以上にする。 ・ぽかぽかアンケートやQ-Uテスト等で子供理解に努める。 ・地域の方々の名前を呼んで関わることができる児童を育てる。	・毎月、重点的な「ににこ言葉」を決めて、声掛けをしていき、意識を高めていく。 ・11月の「ふれあい感謝の集い」、1月の「給食ありがとう週間」、3月の「6年生ありがとう集会」を通して、相手に感謝する心を育む。 ・Q－Uアンケートの結果を分析し、学級経営、学年経営に生かす。	B	・児童はわずかだがポイントが上がった。しかし、保護者については、8割で高いとは言えない。学校外で子供たちが思いやりのある言葉遣いができていないことが考えられる。Q-Uアンケートの結果を生かし、いつでも、どこでも、誰にでも「ににこ言葉」を使う指導をしていく必要があった。 ・「感謝の集い」や「ありがとう週間」「ありがとう集会」後の感想やふり返りでは、感謝の言葉を表す言葉が多数見られた。	・毎月、重点的な「ににこ言葉」を決めて、声掛けをしていき、意識を高めていく。 ・1月の「給食ありがとう週間」、3月の「6年生ありがとう集会」を通して、相手に感謝する心を育む。 ・Q－Uアンケートの結果を分析し、学級経営、学年経営に生かす。
教育活動	●いじめの問題への対応 【心豊か・暮らし】	・生徒指導、人権・同和教育の推進	・友達と楽しく学校生活を送っているかどうかで、「とてもおもう」「おもう」と答える児童を95%以上とする。	・毎月行う「ににこにこぽかぽかアンケート」を行い、いじめの早期発見・早期解決に努める。 ・引き続き、人権教室を月1回行い（全校で1回、学年・学級単位で2回）、事後のアンケートで子供理解を深める。 ・「あのねポスト」を活用し、子供理解を深める。	A	・「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた児童が96%とやや増加し、保護者の回答も、96%と高い数値を表している。「まったくあてはまらない」と答えた児童は、9名から5名に減っている。「ににこにこぽかぽかアンケート」の見直しを行い、早期発見・早期解決に努めてきたことがポイント増加と、「まったくあてはまらない」と答えた児童の減少につながったと考えられる。	・毎月「ににこにこぽかぽかアンケート」を行い、いじめの早期発見・早期解決に努める。 ・引き続き、人権教室を月1回行い、事後のアンケートや感想などで子供理解を深める。 ・「あのねポスト」を活用し、子供理解を深める。
教育活動	○北川副流あいさつ 【暮らし・心豊か】	・生活習慣、礼儀の定着 ・・・**「笑顔で挨拶しよう」**	・時と場に応じて「立ち止まり、目を見て、おじぎをする」あいさつが「よくしている」「している」と自己評価する児童を80%以上とする。	・下半期も、あいさつ名人を放送し、児童の意欲が高まるようにする。 ・クラスごとに2日間、校門前であいさつ運動をする。 ・挨拶運動後、帰りの会などで、学級ごとに振り返りをさせることで、自分達の挨拶の仕方を客観的に把握させる。	B	・児童アンケートの集計によると、笑顔で、「立ち止まり・目を見て・おじぎして」あいさつをしている」と答えた児童は、約89%に達しており、進んで挨拶をしている児童が多いことが分かる。ただ、「よくあてはまる」と答えた児童より、「ややあてはまる」と答えた児童の方が多かったため、さらに進んで北川副え流挨拶ができるように引き続き指導が必要である。	・来年度も、あいさつ名人を放送し、児童の意欲が高まるようにする。 ・年度初めにクラスごとのあいさつ運動を計画し、児童の意欲を高める。 ・各クラスのあいさつ運動の後、帰りの会などで、学級ごとに振り返りをさせることで、自分達の挨拶の仕方を客観的に把握させる。

③「たくましい子」の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	下半期の方策（改善策、維持するための策）	達成度	成果と課題（左記の理由）	来年度に向けて
教育活動	●健康・体つくり 【健やか部】	・外遊びの奨励 ・・・**「外で元気に遊ぼう」** ・「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化	・外遊びやスポーツなどで30分以上運動した児童を90%以上にする。 ・「早寝・早起き」の達成率75%、朝食の喫食率90%以上を目指す。	・引き続き、簡単にできる外遊びの啓発プリントを各クラスに配付し、遊びの幅を広げるとともに、学級担任からも外遊びを奨励してもらう。 ・健康委員会と連携し、クラスマッチに外で行うスポーツを取り入れてもらい、スポーツの楽しみを味わわせる。 ・11月の食育月間で、「早寝・早起き・朝ごはん」実践カードへの取組を行い、習慣化を図る。	B	・「30分以上の運動や外遊び」の問いに、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた児童、保護者とも上半期より5ポイント上昇した。学級担任の呼びかけや健康委員会との連携により、児童が楽しみながら運動に取り組むようになってきたと考える。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」実践カードの取組を学び部の「家庭学習豊夢ワーク週間」と同時期に同じカードを使って実施したことで、昨年度より、児童や保護者の関心は高まった。実践カードの結果、「10時以降に寝る」と目標設定した児童は、全体の1割以上で、特に高学年の就寝時刻の二極化が課題である。	・児童が十分に運動や遊びができるように、20分休みや昼休みを十分に確保できる手立てを提案する ・縦割り活動の遊びの時間の設定について、心豊か部と連携する。 ・県教育委員会主催のスポーツチャレンジへの参加を呼びかける。 ・引き続き、早寝・早起きの重要性を児童や保護者に啓発する。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

本年度は、本校のよさを生かし、課題も改善するため、新たに6つのスローガンを設け、それぞれの部の活動と関連付けながら取り組んできた。前年度踏襲ではなく、各項目について一から見直したことで、成果が上がった項目もかなりあったと考える。しかし、教育のUD化や読書の推進、健康・体力づくりなど、もう一歩だった項目もあった。
そこで、次年度は、学校教育目標はそのまま継続するが、サブテーマと6つのスローガンを次のように変更したい。サブテーマ「自信と意欲、思いやりのある、たくましい子どもを育てたい」、スローガン「(き)もちのよいあいさつをしよう、(た)くさん本を読もう、(か)らだも心も大切にしよう、(わ)かるまで勉強をがんばろう、(そ)うじ・整理・整とんに取り組もう、(え)がおですごせる学校にしよう」
子どもたちが、明るく笑顔で毎日学校に通い、自信や意欲をもって学習や活動を行えるように、コミュニティスクールのよさを生かし学校・家庭・地域がさらに連携・協働して取り組んでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目